

外郭団体経営健全化方針の概要と取り組み状況

【若宮大通駐車場株式会社】

経営健全化方針の記載内容	令和6年度の取り組み結果
<ul style="list-style-type: none"> 若宮大通駐車場(株)が現在抱えている借入金や施設の保有コストの問題などを解決し、事業の採算性を大きく向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 回数駐車券の大口顧客である特約店を14社、販売枚数を約79,000枚とした。 地元大須商店街のイベントへの協賛やイベント用短期定期駐車券の発行などで協力した。 近隣の新築マンション、新築のテナントビルに営業活動を行い、定期契約を獲得するとともに、参画している会員制駐車場事前予約サービスでは、年間約2,500台の利用及び約245万円の収入を得た。 前2項も含めた取り組みによる収益増・費用節減により5年ぶりに経常収支の黒字化を果たした。 定期駐車券の新規契約の販促・契約事務について専門事業者と契約し、そのシステムやノウハウの活用により社内事務の負担を軽減し、限られた人的資源を効率的効果的に活用した。 年2回の四者連絡会議において当社の経営状況などの認識を共有し、新たな経営改善方を協議し、借入金の適切な返済額について合意し、返済を行った。 四者連絡会議での確認を得て、毎年、着実に設備投資を行っており、本年度は、利用者の安心や快適性の向上のための洋式化も含めた東側トイレ改修、損害補償リスクを回避するため、地下1階の一部を床防水塗装を行った他、収益増につながるバッテリー充電用コンセント増設等を行った。
<ul style="list-style-type: none"> まちづくりとの連携や駐車場の新しい使い方の検討など時代の変化に伴い駐車場に対するニーズが大きく変化していることから、都心のにぎわい空間創出に向けてのフリンジ機能の強化や、人や物の移動の拠点機能といった新たな機能の付加など新しい駐車場のあり方を検討していく中で、若宮パークを今後の栄地区のまちづくりと連携した新しい駐車場として活用していく必要があると考えている。そのためには、市が主導的役割を發揮し、長期的に安定した事業継続が可能な新たな枠組みを構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの検討内容をもとに、若宮パークを含めた都市計画駐車場のあり方について、検討を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 施設としての若宮パークの存続を優先し、運営形態の大胆な転換も含めた抜本的解決策を検討し、市の主導的役割のもと、5年程度を目途として若宮パークを新たな姿へと再生させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市主導による若宮パークの再生に向けた抜本的解決策について、引き続き若宮大通駐車場(株)をはじめとした関係者と協議を進めた。

団体名(若宮大通駐車場株式会社)

○法人の財務状況
(貸借対照表から)

(単位:千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
資産総額	2,906,526	2,879,302	2,847,686	2,806,514	2,795,513
負債総額	2,090,864	2,072,907	2,043,393	2,005,713	1,985,792
純資産総額	815,662	806,395	804,292	800,801	809,721

(損益計算書から)

(単位:千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常収益	156,326	182,134	192,216	187,450	209,460
経常費用	202,741	190,424	193,341	189,965	197,535
経常損益	▲ 46,416	▲ 8,290	▲ 1,126	▲ 2,514	11,925
経常外損益	0	0	0	0	0
当期純損益	▲ 49,340	▲ 9,267	▲ 2,103	▲ 3,491	8,920

○財政的リスクの状況

(単位:千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
債務超過額	0	0	0	0	0
損失補償、債務保証及び短期貸付けの合計額(A)	0	0	0	0	0
標準財政規模(B)	654,510,356	673,008,099	664,266,118	678,205,853	697,193,943
(A) / (B)	0	0	0	0	0